

「若い時の生き方」

はじめに

良い目的があったとしても何を大切に、計画し備えるかによって結果は違います。どういう問題が起こり得るのか、その問題が起こった時にどう備えておくのかということをしかりと考えて、小さな種を蒔いていく人の計画は多くの実を結びます。みことばは心を静めて聞く時に神様が伝えようとしておられることの奥義を私たちの心に浮かび上がらせてくれます。考えたり、調べたりすることに時間を費やす前にまずしかりと読むことが大切です。聖書は、あなたに初めから与えられている素晴らしい賜物を保ってそれを行っていくようにと教えています。小さな頃に与えられた能力が将来に光輝いているということを知ってください。そして、その能力は神様に帰ってはじめて生かされるのであって、自分の力に頼ったり、自分の世界だけでやろうとするとそれは生かされません。アダムにエバが与えられたように私たちにも教会の家族が与えられています。自分に与えられた素晴らしい力と、助け手として与えられている教会の家族のすごい力が合わさってはじめて実を結ぶのです。

神の摂理

神の摂理とは前回も学びましたが、運の良い悪いではありません。摂理がなされるために問題が起きたり良いことが起きたりします。特に悪いことが起きた時には神の摂理がその背後に働こうとしていることを知らなければなりません。ローマ書8章に書かれているとおり、神がすべてのことを働かせて益としようとしているのです。鉄を外に投げておけば酸化鉄に戻るように、万物は放っておけば元の姿に戻るように造られているのに、私たち人間だけは戻らないのです。問題は私たちが道を外した故に起きてしまうものですが、その問題の時に神に向くなら神様はその問題をも益とすると約束してくださっているのです。神様は私たちを本物の姿に戻すために人格的信仰的な成熟をもたらそうとしています。元々の人格に戻るということは成熟です。ですから、私たちが元の姿に戻るために計画をもって働いてくださっているのです。それを壊す方法は逃げることです。神の計画を壊すことができるのは悪魔ではなく自分自身だけです。私たちには拒否権があるからです。けれど、葛藤の中で神様の摂理に従いたいと願い、神中心を選ぶなら私たちの生き方は変わります。今朝の聖書箇所はこのようにあなたの生き方を変えなさいと教えているのです。

年が若い（小さい時）というのは今のあなたです（4:12）

パウロはテモテに自分の生き方によって人々に教えるということをお伝えしました。「若い時」というのは原語では「小さいとき」となっています。要するに、「今自分ではできない、能力がない、訓練を受けている最中」ということです。今できないなら何をもってもできません。今与えられている小さな領域の中でできなければどんなに大きな立場を得て、立派な人だと周りに評価されたとしても、その時にやることは同じです。ですから、神様は私たちが大きくなってできるように今の小さい時にできるようにしなさいとテモテを通して教えているのです。

だれにも軽くみられないようにしなさい（4:12）

軽く見られるというのはどういうことでしょうか。「まあ、あの人はね」「あの人は約束を守らないから。」「あの人に任せても無理だから」「あの人に言ったら他の人に言うから」…このような状態のことです。ですから次のようにしなさいと語っています。

①生き方

ことばがまず最初であり、これにかかっています。どんなことばを選んでいきますか。次に態度です。そして、このことばや態度

を選べた人がどうあるべきか。愛です。とっている行動が自分の評価のためか、任された人に対する愛なのかということです。そして、愛があるから信仰が増し加わり、信仰があるからきよめられていきます。純潔とは鉄が酸化鉄に戻るように、金が精錬されていくように元の純粋な姿に戻っていくことです。そして、信者の模範（忠実な跡）となりなさいと語っています。キリストの足跡がバトンタッチされた私たちはそれを繋いでいかなければなりません。

②教えるのは？（4:13）

聖書は自論はいらない、聖書の朗読をまずしなさいとっています。まず読むのです。事実と真実は違うと先週学びましたが、今日は真理です。真実に向かうためには真理がわからなければいけません。そして、勧めと教えに「専念」しなさいと語っています。中途半端ではありません。私たちにツールがあることは良いですが、そのツールを用いるのは聖書を伝えるためです。逆ではありません。聖書を使って何かをしようとするなら必ず失敗します。結果、残すものは破壊です。ですから、聖書は気をつけなさいと語っています。

③賜物を保つ（4:14-16）

神様から与えられた賜物、能力、タラントは、世の中の方法で発展するようなものではありません。世の中で評価される人ももちろんいますが、その人に与えられた賜物が生きた時、それが誰に届くかが大切なのです。神様の賜物は神様の方法で発展するのです。この賜物は今大切にしなければなくなってしまいます。間違っただけで用いるなら与えられたものはなくなると知っておかなければなりません。賜物を大切にすることに時間を費やしていますか。誰かと比較することに時間を費やしているなら本当にもったいないです。その人とあなたは賜物も鍛えられる方法も違うからです。

私たちの心が砕ける時はうまくいかない時です。聖書は賜物がうまくいくためには心を砕けと言っています。両刃の刀を研ぐようなものです。偏ついても切れません。心を砕いて0からやり直して刃を研いでいく時に鏡のように輝くのです。そして、しっかりやること、つまり何を教え、どんなことばを発し、どんな態度を取るのか、そのことに命をかけなさいと語っています。進歩がすべての人に明らかになるのはそれをやったからです。成功して、手柄をたてたから認められるのではなく、その人の生き方が良いから認められるのです。そして、自分自身にも、教える事にも、よく気をつけてあくまでそれを続けなさいと語っています。どんなことを教えているか、自分自身はどうなのかということに本当に気をつけてください。そして、途中でやめないで続けなければならないと語っています。どんな良い教えであっても途中でやめたら何の意味もありません。そうすればあなた自身もそしてあなたの教えを聞く人も救うことになるという事です。何を教え、どんなことばを発し、どんな生き方をしているか、それは何のためなのか、愛があるのか、自分の評価のためか…よく理解しておかなければなりません。

祈りましょう

わたしは、イエス様の足跡をバトンタッチされ、その足跡を繋いでいく者とされました。

問題の時にこそ、私の心を砕いてください。あなたの前に素直に出て悔い改め、自論を捨て、あなたのことばをきくことができますように。